



Audio Engineering Society

AES日本支部便り 2018年冬号

発行 AES日本支部 〒164-0013 東京都中野区弥生町2-19-9 Tel: 03-5358-7320 Fax: 03-5358-7328

- ① 支部長就任ご挨拶
- ② 2018年度 支部役員体制
- ③ 2018年度 事業計画
- ④ 基礎音響セミナー2018のご報告
- ⑤ 若手・学生のためのAESジャパンフォーラム2018 レポート
- ⑥ 日本学生支部の活動について

支部長就任ご挨拶

AES日本支部 支部長 内村和嗣 (日本放送協会)

2018年度AES日本支部長に就任いたしました、NHKの内村和嗣です。昨年度は例会を初めとします通常の支部活動に加え、国際コンファレンス、基礎音響セミナーそして若手・学生のためのジャパンフォーラムなど、皆様に多大なるご協力とご参加を頂きまして誠にありがとうございました。中でも9回目となりました基礎音響セミナーでは、開催前より多くのお問い合わせやご応募をいただきました。しかしながら、定員の関係から多くの方々のご希望に添うことができずご迷惑をお掛けいたしました。次回開催に向けて十分な検討を行い、本セミナーに相応しい対応を致したいと思っております。



また、国際コンファレンスでは320名を超える方々が各国から東京に集まり、AESの歴史に刻む参加人数のコンファレンスとなりました。多くの皆様にオーディオの最新技術に関する情報と討議する機会をご提供できたことにAES日本支部役員を代表しまして、心から感謝申し上げます。

時代はAoIPによる多重チャンネル・セットアップとリアルタイム高音質伝送。22.2マルチチャンネル、Dolby AtmosやAuro3Dといった3D高臨場感音響。また、ハイレゾリューション・オーディオによる高帯域録音再生技術など、私たちがこれまで経験したことのない環境と知覚エリアへ進展しています。オーディオはその架け橋として、技術のフロントラインを歩みながら時代を担っていると言えます。これら最先端の技術をビジネスチャンスとして生かすためには規格のガイドラインは非常に重要な条件となります。AESは70年間の歴史において設立当初から、オーディオプロフェッショナルのための様々な規格の策定を行い、各種伝送方式をはじめとする様々なオーディオの基本規格を定義し統一を図って参りました。また、会員の皆様には、AESの財産とも言えます技術ペーパー17,000以上と解説ビデオ200本以上がいつでも無料で本部Web Siteより閲覧することができます。

本年度、AES日本支部は法人組織に移行いたします。例会、セミナー、フォーラム、コンファレンス、コンベンション、またスペシャルプログラム等、オーディオプロフェッショナルのコミュニティとして、今後ともAESそしてAES日本支部の活動にご理解とご協力をいただけますよう、宜しくお願い致します。

2018年度 支部役員体制

	2018年度（2018年9月～2019年8月）	
	2年	1年
支部長	内村 和嗣	
副支部長		星 和磨
監事	西村 明 由雄 淳一	亀川 徹
運営担当理事	岡田 詞朗	高橋 宏幸 喜多 真一
例会担当理事	山崎 淳 長渡 政文	丸井 淳史 小野 一穂 長江 和哉
会員担当理事	菅野 重信 渡邊 裕子	中川原 修
会計担当理事	中原雅考	小谷野 進司
広報担当理事	中澤 哲矢 三村 将之	飯嶋 慶太郎
教育担当理事	尾本 章	河原 一彦 染谷 和孝
事務局長		見上 陽一郎
事務局	永井 秀文	鈴木 弘明

2018年度 事業計画

1. 会議

- ・ 定期総会, 役員会等

2. 事業

- ・ AES基礎音響セミナーの開催
- ・ 2018年11月 AESフォーラム (学生向け国内イベント) 開催

3. 支部体制の充実と効率化

- ・ 支部会員向けのサービスの拡充 (ホームページ充実など)
- ・ 賛助企業向けサービスの拡充 (フォーラムやイベント等との連携)
- ・ 新会員の獲得とアソシエイト会員からフルメンバー会員への促進

4. 会員情報の管理と会員への連絡

- ・ 本部データベースでの会員の活用体制の継続および推進
- ・ WEBでの会員更新手続き対策と対応の充実

5. 例会

- ・ 見学会・講演会を主体として、計10回程度開催予定
- ・ 外部イベントとの連携も視野に入れ幅広い内容を図る
- ・ 地方開催の推進

6. 法人化

- ・ 法人化設立・移行の準備 (税理士報酬や具体的対応含む)

7. 懇親会

- ・ 2回 (2018年12月, 2019年8月)

以上

基礎音響セミナー2018のご報告

教育担当 染谷和孝（ビー・ブルー）

毎回ご好評を頂いております「AES基礎音響セミナー」ですが、今回で9回目を迎えることができました。今年は9月27日、28日の2日間に渡り、東京藝術大学千住キャンパス(東京都足立区)にて開催いたしました。今回も多く参加申し込みを頂き、合計65名(うち学生15名)の方々に受講して頂くことができました。特に今回はフォスター電機様や音響芸術専門学校様をはじめ、団体申し込みを多数頂き、多くの学生の皆様にもご参加頂くことができました。さらに賛助会費をお申し込み頂きました企業様からも多数のご参加を頂きました。ご参加を頂きました皆様、そして講師の皆様のご協力に心からお礼を申し上げます。

講座内容に関しましては、基礎物理音響学からオーディオ技術の最前線に至る「総合的セミナー」として、2日間で合計12講座を開催いたしました。また、毎回特別なテーマを設定して開催しております「マスタークラス」に関しましては、今後の大きなテーマである「“Spatial Audio for Home” 家庭環境に向けた取り組み」と題して、小森智康氏(NHK放送技術研究所)、岸智也氏(カプコン)、牧村亮治氏(Cygames)の3名による貴重な講演が実現いたしました。各々が現在取り組んでいる内容をご紹介頂き、岸氏は「ヤマハ」が開発を続けている「ViReal」(Ambisonicsを活用)を使った最新ゲーム事例、続いて牧村氏はDolby ATMOSを採用した最新ゲームをそれぞれデモンストレーション。座席には約70台のヘッドフォンを用意し、その貴重なサウンドが聴けるよう配慮を致しました。その後、小森氏より22.2chの家庭環境への具体的な取り組みをご紹介頂き、22.2ch環境でのスピーカ再生による“Spatial Audio”を試聴。再生環境が“Spatial Audio”にどのような影響を与えるのか、実体験を通して学べる内容となりました。

セミナー終了後の懇親会では、25名の受講者の皆様と18名の講師及びスタッフが参加し、大変有意義な交流、情報交換が行われておりました。2日間に渡り、幅広く一線で活躍されている講師陣の講義を受講できるセミナーは、非常に貴重な機会であると思います。ご多忙の中、講義をお引き受け頂きました講師の皆様、そして受講生の皆様、また平素よりAES日本支部の活動にご理解を頂いております会員並びに賛助会員の皆様に重ねてお礼を申し上げます。どうぞ引き続きのご理解とご協力をお願い致します。

<AES基礎音響セミナー2018開催概要>

日時：2018年9月27日(木)、28日(金) 9:00-18:00

場所：東京藝術大学千住キャンパス(東京都足立区千住1-25-1)

資料代：

【学生】会 員： 7,500円

【学生】非会員：10,000円

【一般】会 員：15,500円

【一般】非会員：30,000円

【オプション賛助会員】無料（1口につき1名）

【団体割引】10名以上の団体申し込みで10%割引

懇親会参加費：【学生】 2,500円 【一般】 5,000円

<セミナー概要>

【初級講座】

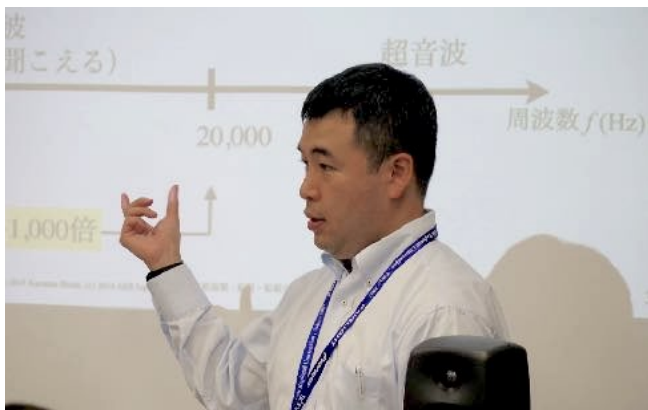
- | | |
|-----------------|--------------------|
| A1. 音の基礎 | 星和磨(日本大学) |
| A2. 聴覚と音知覚の基礎 | 西村明(東京情報大学) |
| A3. デジタル信号処理の基礎 | 渡邊祐子(東京電機大学) |
| A4. 電気音響の基礎 | 田村良隆(スタジオイクイップメント) |

【中級講座】

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| B1. 室内音響入門 | 中原雅考(ソナ/オンフューチャー) |
| B2. 音の心理評価入門 | 丸井淳史(東京藝術大学) |
| B3. 実用デジタルオーディオプロセッシング | 鈴木久晴(エヴィクサー) |
| B4. スピーカ入門 | 小谷野進司(KOYANO Sound Lab.) |
| B5. マイクホン入門 | 小野一穂(NHK放送技術研究所) |
| B6. ステレオ録音入門 | 亀川徹(東京藝術大学) |

【特別講座】

- | | |
|--|--------------------|
| C. 技術英語入門 | 鈴木弘明 (MQA/ソナ) |
| M. マスタークラス 「“Spatial Audio for Home” 家庭環境に向けた取り組み」 | |
| | 小森智康氏 (NHK放送技術研究所) |
| | 岸智也氏 (カプコン) |
| | 牧村亮治氏 (Cygames) |



A1. 音の基礎

星和磨(日本大学)



A2. 聴覚と音知覚の基礎

西村明(東京情報大学)



A3. デジタル信号処理の基礎

渡邊祐子(東京電機大学)



A4. 電気音響の基礎

田村良隆

(スタジオイクイップメント)



B1. 室内音響入門
中原雅考
(ソナ/オンフェューチャー)



B2. 音の心理評価入門
丸井淳史(東京藝術大学)



B3. 実用デジタルオーディオ
プロセッシング
鈴木久晴(エヴィクサー)



B4. スピーカー入門
小谷野進司
(KOYANO Sound Lab.)



B5. マイクロホン入門

小野一穂

(NHK放送技術研究所)



B6. ステレオ録音入門

亀川徹 (東京藝術大学)



C. 技術英語入門

鈴木弘明 (MQA/ソナ)

M. マスタークラス 「“Spatial Audio for Home” 家庭環境に向けた取り組み」



M. マスタークラス ヘッドホン環境での再生



M. マスタークラス 22.2chスピーカー環境での再生



若手・学生のためのAESジャパンフォーラム2018 レポート

ジャパンフォーラム事務局長 星和磨（日本大学）

今年もAESジャパンフォーラムは、“音に興味のある若手・学生と音響業界で活躍するプロを繋ぐ”をモットーに、11月24日（土）日本大学理工学部の駿河台1号館で実施しました。ジャパンフォーラムは、若手・学生のアピールの場であるポスター発表、音響業界の魅力を伝える業界セミナー、そして交流を深める懇親会の3部構成です。昨年度に第1回を開催し、92名と多くの参加者が集いました。さて第二回はどうなるかとハラハラしましたが、今年度はポスター発表24件、参加学生65名、全体で102名の参加となり、昨年度とほぼ同規模で実施することができました。ご参加頂きました皆様、ご協賛頂きました10社の企業様に厚く感謝申し上げます。

今年度のポスター発表は、地元・日本大学からの発表が半数近くを占めるなか、専門学校から2件の発表がありました。自分が作曲した音楽や録音した音源を披露したり、小型スピーカを使って新たなる3D音響の録音再生を試みたりと、専門学校ならではの発表が際立っていました。発表していた専門学校の学生に話を聞くと、「大学の学生さんはみな難しいことをやっている」と謙遜していましたが、個人が持っている技術と才能をアピールできたのではないのでしょうか。また大学の学生さんからは、録音やゲームサウンド・サラウンドの評価、聴覚心理、音場解析などの多岐にわたる発表のなか、聞こえない音、超音波の利用に関する発表も多くありました。音はこんな利用の仕方や技術があるのかと、参加した多くの学生の心に残ったかと思えます。



ポスター発表の様子。24件の発表を半分にわけ、1時間ずつ発表しました

業界セミナーは、(株)カプコン、(株)コルグ、任天堂(株)、(株)スクウェア・エニックス、サンフォニックス(株)、ヤマハ(株)の6社に実施頂きました。15分と短い時間のなか、工夫を凝らしたプレゼンテーションで業界の仕事内容とその魅力が学生に伝わったことと思います。InterBEEとの開催も近いため、セミナーを開催したいが準備がなかなか難しいとのご意見も頂いております。来年度は開催日のお知らせをなるべく早くさせていただきます。また、セミナーの最後にAES日本学生支部の支部長・長島千尋さんから活動報告をしていただきました。日本国内の活動だけでなく、AES本部のコンベンションにも参加して、世界動向を感じるとともに、音響業界に興味のある世界中の若者と交流している様子をご紹介頂きました。今後は国内の和がジワジワっと広がるような活動もしていくとのことですので、情報はTwitter、Facebookなどで随時発信されますので、是非フォローをお願い致します。

最後に実行委員長の河原先生が一番大切という、懇親会を2階のカフェテリアで行いました。昨年度よりも会場が広くなったので、美味しい食事を囲みながらゆっくりと話げできたことと思います。中締めをしてもなかなか帰路へ足が向かず、名残惜しさが感じられました。



(写真左) 業界セミナー後に行われた
日本学生支部による活動報告

(写真右) 懇親会の様子。
所属を越えた人脈が
ひろがったことでしょう

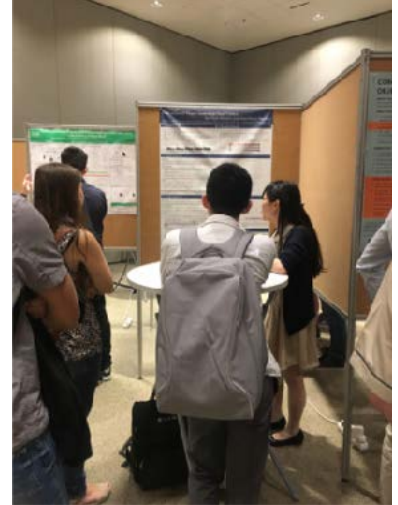


今回も所属の垣根を越えて輪が広がった「若手・学生のためのAESジャパンフォーラム」、AESならでは、日本支部ならではのイベントに育てていければと思っております。日本支部役員、日本学生支部の学生で運営しておりますが、永続的に実施するためには、賛同頂ける企業様、そして御協力頂けるAES会員に学生支部会員の参画が不可欠とも感じております。来年度以降は、これまで以上にいろいろな場面で広報や告知をさせていただきますので、御協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

日本学生支部の活動について

AES日本学生支部 支部長 長島千尋（東京藝術大学）

5月には、ミラノで開催されたコンベンションにて、学生主催のコンペティションをはじめ、様々なイベントに参加しました。コンペティションでは参加した日本学生支部の学生がファイナリストに残ることはできませんでしたが、クリティクスに応募し、プロのエンジニアから作品についての講評を受けた学生もいました。ポスターセッションでは、電気通信大学や東京藝術大学の学生が普段行なっている研究についての発表を行い、各国の学生や研究者から多くのフィードバックを得ることができました。ヨーロッパを中心に、オーディオを学ぶ世界中の学生と交流し、仲を深めることができました。



8月には、東京で開催されたAESインターナショナルカンファレンスに参加し、東京芸大のスタジオに併設されたマルチチャンネル再生システムを使用し学生の3Dオーディオ作品の講評会を実施しました。AESコンベンションでのコンペティションやクリティクスではステレオや5.1chサラウンドの作品までしか審査や講評を受けることができないため、立体音響作品や録音作品を作っている学生が、プロのエンジニアからフィードバックを受けられる貴重な機会となりました。



11月には昨年度に引き続き、日本大学にて若手・学生のためのAESジャパンフォーラム2018を開催しました。若手・学生参加者によるプレゼンテーションを通して、様々な視点から、幅広い研究領域において「音」についての研究や制作を行なっている同年代の学生がいるということを知ることができ、お互いにその研究・制作活動についての知識を深めることができただけでなく、業界セミナーでは、オーディオに関するさまざまな業界についての情報を得ることができました。「音」に興味を持つ若手・学生がお互いに交流し、音響企業・業界の方々とコミュニケーションを取ることのできる場となりました。

